

日本におけるズグロカモメの生息記録

武下雅文

〒800 福岡県北九州市門司区大里戸ノ上3丁目13-11

はじめに

ズグロカモメ *Larus saundersi* は中国東部沿岸で繁殖し、冬期は中国東部、韓国、台湾、ホンコン、ベトナム北部、日本南部で越冬する。中国での繁殖地は現在、江蘇省、山東省、河北省、遼寧省の少数の沿岸や河口域が知られている。国内における本種のおもな越冬地は九州北部であり、その中の福岡県北九州市曾根干潟に関しては越冬数の年変化と季節変化について報告がある（武下ほか1993）。

本種の総個体数は2,000～3,000羽程度とされ、バ・ドライブ・インタ・ナショナル版レッドリストでは絶滅危惧種（Endangered）にされている（Collar et al. 1994）。しかし本種の国内における越冬地については、今までに十分情報の整理が行なわれていなかった。そこで本報告ではアンケート調査などによって、本種の国内の越冬地の分布現況把握を試みた。

調査方法

国内の越冬地の情報を得るため、各都道府県の鳥類相を示した文献から本種の記録をひろいだし、また現況を知るために日本野鳥の会の支部へのアンケート調査を行なった。また九州で本種の調査を進めている調査者にも協力を求めた。日本野鳥の会支部へのアンケート調査は海岸線に接する51支部に、ズグロカモメの生息記録についての用紙を発送し、回答を求めた。設問項目は1993年冬期より1994年春期までのあいだの記録の有無、その記録地の最大個体数と記録日、記録された環境、過去の記録の有無などである。アンケート調査と並行して北九州を中心に大分県や福岡県、長崎県熊本県の有明海沿岸一帯で生息状況調査も実施した。アンケートの回答を得られなかった地区については、地区単位でまとめられている鳥類相・報告書から記録をひろい出した。

結果および考察

アンケートを送付した51支部のうち20支部から回答を得た。本種が記録されたのは8県12か所であるが室蘭、宮古、山形県、秋田県、新潟県、富士宮支部からは記録がないとの回答を得た。これらは筆者らが九州で独自に調査して得られた福岡、大分、佐賀、長崎、熊本各県での最大個体数とともに表1、2に示した。表1には記録はあるが個体数や環境、定期的に越冬するのが不明の場所を示し、表2には定期的に越冬している場所を示した。定

1995年12月6日 受理

キ-ワ-ド：アンケート、越冬地、ズグロカモメ、分布

表1. 日本での過去のズグロカモメの生息記録
Table 1. Observations of Saunders Gull in Japan.

県名	記録地	個体数	月/日	環境	状況
北海道	担振・十勝				
Q 新潟	新潟市鳥屋野潟	1	4 / 14 (1978)		
Q 富山	氷見市十二町	1	3 / 4 (1988)		越冬
Q	新湊市富山新港	1	12 / 4 (1988)		越冬
Q	高岡市庄川	1	5 / 21 (1991)		
Q 石川	金沢市金沢港	1	9 / 16 (1976)		
Q	津幡町河北潟	1	1 / 12 (1991)		
Q 神奈川	平塚市相模川河口	1	3 / 30 (1983)		
Q	川崎市多摩川河口		5 / 1 (1989)		
Q 愛知	名古屋市庄内川河口		11 ~ 3 (1984)		越冬
Q 三重	河芸町田中川河口	6	1 / 15 (1991)	砂泥質干潟	越冬
Q 和歌山	御坊市日高川河口		3 / 31 (1987)		
大阪	大阪市南港埋立地	8			
兵庫	姫路市興浜	2	3 / 2 (1991)		
広島	広島市八幡川河口	1	3 / 15 (1979)		
Q 宮崎	佐土原町二ツ立	1	3 / 28 (1993)	砂泥質干潟	
鹿児島	鹿児島市谷山	1	12 / 3 (1973)		
沖縄	那覇市漫湖	10			越冬

Q. はアンケート回答 ほかは文献による.

表2. 1994年から1995年までのあいだのズグロカモメの生息記録
Table 2. Observations of Saunders Gull in 1993-1994 wintering season in Japan.

県名	記録地	個体数	月/日	環境	状況
Q 千葉	船橋市谷津干潟	5	3 / 13 (1994)	砂泥質干潟	越冬
Q	木更津市小櫃川河口	3	2 / 5 (1994)	泥質干潟	越冬
Q	長生村一宮川	1	1 / 3 (1994)	砂質河口	
Q 島根	斐川町五右衛門川	1		砂質河口	越冬
Q 山口	山陽町厚狭川河口	2	3 / 28 (1994)	砂泥質干潟	越冬
Q 香川	高松市春日川河口	2	2 / 5 (1994)	砂泥質河口	越冬
Q 徳島	徳島市吉野川河口	4	3 / 20 (1994)	砂泥質河口	越冬
Q 愛媛	西条市加茂川	23	2 / 28 (1994)	砂泥質河口	越冬
Q 福岡	福岡市今津埋立地	21	2 / 20 (1994)	砂泥質河口	越冬
Q	福岡市和白干潟	11	2 / 20 (1994)	砂質干潟	越冬
Q	北九州市曽根干潟	213	1 / 29 (1995)	砂泥質干潟	越冬
Q 大分	中津市東浜	29	2 / 27 (1994)	砂泥質干潟	越冬
Q	宇佐市乙女浜	6	1 / 4 (1994)	砂泥質干潟	越冬
	中津市自見川	28	1 / 29 (1995)	泥質干潟	越冬
佐賀	東与賀町大授搦	198	2 / 17 (1995)	泥質干潟	越冬
	鹿島市新籠川	98	2 / 17 (1995)	泥質干潟	越冬
長崎	諫早市小野島海岸	283	2 / 3 (1995)	泥質干潟	越冬
熊本	松橋町不知火	106	2 / 18 (1995)	泥質干潟	越冬
	八代市球磨川河口	42	2 / 4 (1995)	泥質河口	越冬

Q. はアンケート回答.

期的に越冬している場所の環境は干潟が12か所、河口が7か所だった。4か所は砂質の場所だったが、ほかはすべて砂泥質の場所だった。愛媛県西条市加茂川河口では、1991年6月に中国遼寧省盤錦湿地の双台子河口自然保護区で右ふ臑に赤色足環を装着して標識放鳥された1羽が1992年1月に確認され(山階鳥類研究所標識研究室1992)、以後、毎年確認

されている（十亀茂樹 私信）。

千葉県を除いて西日本地区に記録が集中していた。特に九州での越冬数が多く、おもな越冬地での総個体数はほぼ1,000羽だった。本種の総個体数は全世界で2,000～3,000羽と推定されているので（Collar et al. 1994）の2～3分の1が周防灘および有明海・八代海で越冬していることになる。しかし越冬地には開発計画が進められている。最大の越冬地であり、283羽の越冬が確認された諫早市小野島海岸ではすでに潮受堤防の築堤工事が完了しており、干拓地に変貌しようとしている。また、213羽の越冬が確認された北九州市曾根干潟では新北九州空港建設にともなう周防灘地域開発計画により、将来の干潟の存続が危ぶまれている。ズグロカモメの保護を進めるためには、今後、本種の越冬地となっている各地の保全状況を把握することが緊要である。

謝 辞

ズグロカモメの記録についてご回答いただいた日本野鳥の会各支部にお礼申し上げます。また日本野鳥の会大分県支部桑島哲氏、同北九州支部佐本一雄氏、北九州市立自然史博物館の武石全慈博士には貴重な調査記録を提供していただいた。以上の方々にお礼申し上げます。

引用文献

- Collar, N. J., Crosby, M. J. & Stattersfield, A. J. 1994. Birds to watch 2: the world list of threatened birds. Birdlife International, Cambridge.
- 兵庫野鳥の会. 1990. 兵庫の鳥. 兵庫野鳥の会, 神戸.
- 清棲保之. 1978. 増補改訂版日本鳥類大図鑑. 講談社, 東京.
- 日本鳥類保護連盟広島県支部. 1980. 広島県の野鳥. 日本鳥類保護連盟広島県支部, 広島.
- 日本野鳥の会大阪支部. 1987. 大阪府鳥類目録. 日本野鳥の会大阪支部, 大阪.
- 名古屋市. 1991. 名古屋の野鳥. 名古屋市, 名古屋.
- 沖縄野鳥研究会. 1986. 沖縄県の野鳥. 沖縄野鳥研究会, 豊見城.
- 武下雅文・佐本一雄・林修. 1993. 福岡県曾根干潟におけるズグロカモメの越冬数の年変化と季節変化. *Strix* 12: 107-114.
- 野生生物情報センタ -. 1985. きたの鳥たち. 野生生物情報センタ -, 札幌.
- 山階鳥類研究所標識研究室. 1993. 平成4年度鳥類観測ステーション報告. 山階鳥類研究所, 我孫子.

Observations of Saunders Gull in Japan

Masafumi Takeshita

3-13-11 Dairitonoue, Moji-ku, Kitakyushu-shi, Fukuoka 800, Japan

Questionnaires on observations of the Saunders Gull *Larus saundersi* were sent to 51 branches of the Wild Bird Society of Japan and replies were received from 20 branches. The

Saunders Gull was recorded on at least 12 sites in 8 prefectures in the 1993-1994 wintering season. Isahaya and Sone in Kyushu, south-western Japan are important wintering sites for the gulls because more than 200 individuals are wintering every year. However, these sites have plans for development, so the condition of these sites will change in the near future.

Key words: Larus saundersi, wintering record